



山の中腹に作られた園沖地区は、急坂の多い住宅地です。幹線道路のバス停までも距離があるため、通院や買い物に不便を感じる高齢者も多くなりました。「バスで買い物に行くと、お米を買ったら帰り道を登れない。」「配達してもらえば用は足りるけど、自分の目で見て買い物をしたい。」そんな声から作られたのが月に二回の『買い物定期便』です。これは

地域のニーズを把握して多彩な活動を展開

▲送迎隊の活動の様子。急坂の多い園沖地区では、通院や買い物に送迎が必要な高齢者も多くなりました。

地域内で同じ悩みを抱える複数の住民を、隊員の運転する車で近くのショッピングセンターに連れて行き、みんなでゆっくりと買い物や会話を楽しんだ後、荷物を持って帰宅することができる仕組みになっています。

このようなニーズを把握し、地域・役員・隊員をつなぐコーディネートは、足繁く、地域内の高齢者宅を一軒一軒訪問しています。「戸別に訪問することで、どこのお宅にはどんな人が住んでいる、どんな状態にあるかを知ることができます。それに地域を回ることは、住民に園ネットを知ってもらう広報にもなるんです。」小さな地域だからこそできる、きめ細やかな対応です。

「これはオレに任せとけ！自分にもこんなことができる！ということを生かしていくとして、みんながいつまでもイキイキと地域で暮らしてほしい。」会長の吉澤憲一さんは言います。自分だからこそできるものをアピールする。だから「園ネット」はその活動の幅広さが特徴です。現在は四十一名の隊員が、ゴミ出し隊・雪かき隊・草刈り隊・送迎隊・何でも隊（まちの縁側隊）として活躍しています。今は防災・包丁研ぎ・網戸張り・散髪・婚活筆耕・マージャン・健康体操も盛り込みたいと、構想はどんどん膨らんでいます。

イキイキと活動している隊員たちの様子を見て、若い世代を中心とした組織



▲勢年団も加わった雪かき隊の活動。「自分たちも先輩方のように、様々な活動を大いに楽しみながらやって行こうと思います。」



そのおき 園沖支え愛ネットワーク

(長野市 安茂里地区 園沖団地)

長野市

連絡先：吉澤憲一 会長
TEL：026-227-2030
FAX：026-227-2030

〒980-0961
小竹町目
42-10

地域を知ることから始まった活動

三年前、園沖地区の自治会は、地区内全ての高齢者を対象に敬老会を開催しようと考えました。それまでは、高齢者クラブの会員のみに行っていたのですが、それでは対象者が限定されてしまうと考えたからです。高齢化が進んでいくこともあって、自治会は住民に対し困りごとのアンケートを行うと共に、そのお手伝いをしてくれる人を募りました。その情報も使いつながり、より詳しい状況を把握するため「支えあいマップ」を作成します。子どもはどのくらいい



▲「そう言えば、あそこの〇〇さんはこんなことができるって言ってたな」役員会の情報交換の中から、重要な地域資源を見付けます。

るのか、空家はどこにあるのか、孤独になりそうな高齢者のところには誰が行けるのか…。何度も話し合いを重ねる中で、改めて地域の課題や良さに気付かされました。

そんな中、「明日は我が身」という思いでボランティア二十余名が組織を作りました。これが「園沖支え愛ネットワーク（通称園ネット）」のはじまりです。

▼空家の駐車場を利用した、まちの縁側「町愛助（まちあいじょ）」で作業の合間にひと休み。大きな鉄釜の上に板を乗せたテーブルは、災害時には炊き出し用に使われます。看板の柱は地区の裏山で伐採した山藤の幹、看板は地域の方が書いたものです。



「自分にもこんなことができる！」

「勢年団」が「園ネット」に参加し、先輩たちと一緒に活動を始めています。支え愛の理念は、次の世代にも確実に受け継がれています。

